

ゲガルクニク・コタイク両州における日本と UNDP の共同事業開所式

令和 8 年 5 月 12 日、青木豊駐アルメニア日本国大使は、ナティア・ナツヴリシュヴィリ国連開発計画（UNDP）アルメニア常駐代表とともに、日本政府と UNDP が共同事業を実施しているゲガルクニク州及びコタイク州を訪問しました。両氏は、避難民とホストコミュニティを対象とした事業（約 4 億 5000 万円）の一環として整備された、チャンバラク村の貯水池及びチャレンツァヴァン村の公共スペース及び遊び場での開所式に参加しました。

ゲガルクニク州のチャンバラク村では、新たに 11,000 m³の貯水池が建設されました。最大 200 haの農地の灌漑が復旧し、地域住民約 200 世帯において安定的な農業生産が可能になります。また、同村の幼稚園や救助隊基地には太陽光発電システムが設置されました。これにより、エネルギーの自給率が高まり、安定的かつ継続的な公共サービスが提供されます。ゲガルクニク州全体では計 9 基の太陽光発電システムが設置され、そのうち 8 基がチャンバラク村に導入されています。

コタイク州のチャレンツァヴァン村では、避難民とホストコミュニティの社会的結束・包摂及び住民交流を促進するため、新たな公共スペースと遊び場が整備されました。

青木大使は開所式の挨拶で、本事業は単なるインフラ整備にとどまらず、地域社会、政府、国際機関が結束して取り組んだからこそ実現できた成果である旨述べました。また、アルメニアにおける気候変動への適応、持続可能な開発及び人間の安全保障を支援する上での、日本と UNDP の協力の重要性についても強調しました。



祝辞を述べる青木大使



関係者とテープカットをする青木大使



貯水地前で関係者との記念撮影



幼稚園の子供たちとの記念撮影



レスキュー隊員との記念撮影



ダンスを披露する子供達



建設された貯水池



日本の協力を示す ODA プレート